

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809160		
法人名	伊藤電気株式会社		
事業所名	グループホーム大曲はなぞの2号館		
所在地	大仙市大曲花園町25-26		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、スタッフルームに掲示している。以前には実践者研修にて理念の見直しを行い、日々の申し送りにて入居者様の状態を確認しながら理念に沿った関わりができるよう話している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する町内会へ所属し、コロナウイルス発生以前は76歳以上対象の食事会へ職員付き添いにて参加していた。又、施設行事の芋煮会へも参加を呼びかけ交流できていた。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々との認知症を学べる場として、認知症サポーター養成講座の開催経験や、認知症なんでも相談所を設置し、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス発生後は感染対策として文書にて様子を報告し、町内の住民、家族の代表者、以前入居されていた家族様にも引き続きご意見を頂いている。又、地域住民の方では消防関係に詳しい方もおり、参考となる意見を聞くことができています。11月からは感染対策しながら会議再開予定。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者として市役所高齢者あんしん相談職員にも参加して頂くことあり。地域の情報や助言を聞くことができています。又、入居者様やそのご家族様との関わりにて困り事等あれば連絡し、相談や意見を頂いたり、話し合いに参加を頂いたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで身体拘束の事例はない。身体拘束のないケアに取り組み、外部研修あれば参加するようにし、マニュアルも完備している。又、社内研修にて年4回組み込んで実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアが身体的、精神的苦痛にならないように職員で話し合いながら取り組んでいる。虐待の外部研修あれば参加するようにし、社内研修でも年1回組み込んで実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があったが、実際の利用はしたことがない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の本人やご家族様との面談にて不安や疑問点を解決したうえで契約するようにしている。又、改定があれば文書にて連絡と同意をもらうと共に、必要であれば再度口頭にて説明を行い、理解と納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではコロナウイルス発生以前は入居者様やご家族様代表も参加してご意見を頂き、災害時の対策や非常時の御意見も頂いている。又、以前にはアンケート実施も取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルス発生以前は月1回代表者も参加できる限りは加わって頂き、全職員での会議の場を設け、意見や要望を話し合っていた。現在は感染対策にて報告書での回覧となっており、設備面や備品にて不良あれば都度報告し、電化製品やベット等の交換に繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度職員評価を実施、実績を評価し、意欲をもって勤務できるよう努めている。設備に関しては、職員の不便の無いよう、不備や不具合には早めに対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員評価で力量を把握。コロナの為外部の研修の機会が減ったが、リモートで行われているものは参加できるよう案内している。社内研修も毎月行い資質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はグループホーム協議会等に参加して、交流を深めたり、勉強会への参加に努めている。(今現在はコロナ禍のため相互訪問は行っていない。)代表者は一部の会の役員として研修の企画、立案にも参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて可能な限り、訴えや要望を聞き、入居後の不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談にて家族の気持ちや要望等を把握できるように努めている。又、入居後も状態をみて連絡を取り合える体制づくりをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で生活を共にしているという関係づくりを目指している。入居者様の思い、不安、喜び等を共に分かち合い、支え合える関係づくりを目指している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや意向を大切にしながら、家族との繋がりが保てるよう支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス発生以前は職員はもちろん、家族や友人の協力にて自宅や馴染みの美容院等へ出掛けていた。現在は面会を制限つきではあるも行き、電話等では家族や友人との交流をして頂き、関係が保たれるよう対応している。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や一人一人の思いを把握し、必要時には職員も見守りや仲介しながら孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ、居宅のケアマネジャーとの連絡も取り、相談や情報提供をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの誕生日には食べたいものを聞いたり、日々の会話にて出掛けたい所があれば天候をみながら取り入れるようにしている。又、入居者様一人一人の状態を毎月のカンファレンス用紙に記入してもらい、会議会議報告書にて回覧し、必要時には毎朝の申し送り時での話し合いもする様にしている。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時より生活の聞き取りをし、アセスメント作成して現状の把握に努めている。又、必要によっては随時確認するようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでも日々の申し送りにて現状の把握ができるよう、職員間の報告、連絡、相談に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員1名に対し、一人から二人の担当制を半年交代で担当者の毎月の評価や担当者会議にて記録をもとに話し合いをしている。以前は全員参加していたが、コロナウイルス発生後は感染対策にて担当者と管理者、ケアマネ、出勤職員にて話し合い、申し送りと文書の回覧行っている。又、入居者様の状態をご家族様に知ってもらうため、毎月個別にプランの評価と生活の様子を手紙にて送っている。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な言動や行動、プランの内容も記録に残すよう徹底している。又、朝夕の申し送り時、状態変化に情報を共有できるように記録記入にも努めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事なく、外出頻度が少ない分、ホーム内作業にて得意とする調理や裁縫、趣味活動(塗り絵、貼り絵等)を取り入れ、一人一人の能力が発揮や楽しんで生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設対応にて受診している。又、協力医からの往診にて予防接種や受診困難時にはホームへ来て頂いている。薬局や医師との連携もとれており、個別記録にはかかりつけ医の記載をしている。		
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約をし、週1回の定期訪問に加え、状態変化時には相談等を24時間体制にて対応できるようになっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供し、入居者様が不安なく治療を受け、早期に退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	社内研修へ看取りに関する内容を組み込みながら主治医や家族との相談のもと、看取りのケアを行い、緊急時のマニュアル作成も、かかりつけ医や緩和ケア外来、病棟との連絡体制にてケアをできた事例もあり。又、終末期対応後にご家族様から感謝の手紙や言葉を頂き、職員へ知らせることで今後のやる気へ繋げている。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス発生以前は消防署への依頼、協力のもと救急救命の講習できるように努めていた。又、急変時の対応マニュアルの作成や連絡網の整備に加え、勤務表作成時に毎日当番制にて夜間の緊急時に出動できる体制を整えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に参加頂いている近隣町内の方には連絡網へ入って頂き、協力体制がとれている。避難訓練後には運営推進会議にて報告も行っている。又、火災訓練は年2回、水害訓練は年1回行っている。以前2軒隣で火事発生時には近隣住民や運営推進会議役員が駆け付け、協力頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の徹底を図り、名前の呼び方や日々の声掛けについても確認しながら対応している。又、職員同士でも日々の中で意見や注意をし合える環境作りに努めている。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面の会話にて食べたいもの、行きたい所等の決定ができる機会を設けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の体調や生活習慣を把握し、希望や訴えにも合わせた生活ができるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望や好みを確認しながら、訪問理容の依頼をしたり、希望にて化粧品等の希望をされる方もあり。普段から身だしなみを整えることができている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や昔からの郷土料理、誕生日の手作りケーキ等、入居者様の意見も取り入れたりしている。又、行事にてお祭りの雰囲気味わってもらえる焼き鳥、綿あめ等を提供したり、作業の過程にて山菜の下処理等、昔からの得意分野を活かしながら参加してもらっている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、一人一人の食事、水分量をチェックしている。又、好みの飲み物の把握や容器の検討をしたり、栄養や水分の確保に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力や状態に合わせた口腔ケアや夕食後には義歯使用者にポリデントと必要によっては管理も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄をチェック表に記入している。リハビリパンツを利用されていてもできるだけトイレにて排泄できるよう支援している。又、排泄状態によってはチェック表を活用して、下剤の管理や状態によってはポータブルトイレの設置も行っている。		
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維のあるものや野菜を多めに取り入れ、水分も好みの物できるだけ多めに摂ってもらえるように心がけている。又、体操も継続して行えるようにしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣や体調に合わせてながら週2回の入浴日を設けている。入浴が困難な時や拒否が強い方には時間や日程を変更したり、足浴や清拭を取り入れ、気持ち良く生活できるように支援している。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせて、休息や睡眠がとれるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬についての内容は個人ファイルに処方箋を収納していつでも確認できるような体制をとっている。又、症状の変化時には記録をすると共に、主治医や訪問看護師に確認するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や入居者様の好み、能力に応じた活動が提供できるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス発生にて家族や友人との外出機会は持っていないが、花見等の季節を感じてもらえるドライブ、近隣の散歩での個別対応もできるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や御家族様との確認のもと、現金の所持、使用をし、金庫保管、出納帳にて管理している。又、現金保管、通帳管理については取り決めを交わし、書面にも残している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からの希望も踏まえたうえで、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。友や家族の電話や聞こえの状態によっては職員が介入しながらやりとりできている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある小物や貼物、入居者様の作成した作品も飾りながら季節を感じられる空間づくりに努めている。又、床暖房や冷房の完備もあり、冬期間には加湿器も設置しながら管理と確認を行っている。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にあるベンチや畳の間にてそれぞれの居場所をみつけ、馴染みの入居者様同志で過ごすことできている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンとベット、小箆箭的なものは備え付けになっている。他は自宅にて使っていた家具やテレビ、亡くなった方を弔うための写真や仏壇を持ち込んで頂き、気持ちの良い環境になるよう工夫している。又、殺風景な居室には貼物等にて工夫している。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室内入口、トイレ、浴室、ベット等には手すりを設置し、安全に移動できるよう配慮している。又、必要によっては家具の配置の検討や実施も行っている。		